### 朝日新聞 10月30日

### 5

## 推進機構の会員ら=溝口町二部で 作業の合間にくつろぐ地区活性化



溝口町二部地区

による炊き出し、周辺自治一落したため、住民自身によ **善推進連絡協議会(八十八** 被災者を対象に町食生活改 人。智靈信(大) 地震直後から、町内の全

てそうした支援活動が一段 ていた。三週間余りが過ぎ ンティアによる活動が続い

ると、心臓に不整脈が出で一、二週過ごして家に戻 といろ長尾さんは「二人の の傾きがさらに増している きかった長尾忍さん(六)と 分かれて、住宅の被害が大 子どもは都会住まい。都会 西村マツ代さん(ま)の家に 出向き後片付けをした。 この日は十五人が二組に 余震で木造平屋建ての家 発行したほか、昨年暮れに

る。家を建て替えて、とこ一六割が被災した。われわれ にある四百三十戸のうち約 遠允事務局長(守心は「地区 支援は福祉ボランティア部 5判、百三十四()も出版 会が中心になっている。 六つの部会があり、今回の は「ふる里野上の郷」(A した。総務、産業振興など 一部公民館長でもある安

家財道具を片づけ

寄り世帯年

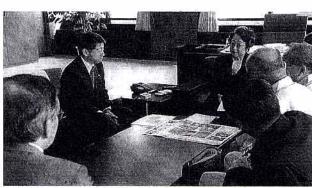
お年寄り世帯の家財道具の片づけなどの支援活動を始めた。 (住田泰会長ら六十人)が二十九日から、地区で被災した独居の 溝口町二部地区で昨年四月に発足した「地区活性化推進機構」 体職員や銀行員ら町外ボラーる支援活動に取り組むこと一だった。地区活性化推進機

うと発足し、三号の会報を で暮らしたい」と言う。 構は旧村の活気を取り戻そ 役所や旅館もある郡の中心 一部村で、かつては日野郡 同地区は合併する前の旧

どなんらかの被災を受けて 「援を求めている人のお手伝委員も自宅や田畑、墓地な」が、町の災、」 版本部へ支 ようなことまではできない一る。 いる身なので、行政がやるいをしたい」と話してい

り組み

### 朝日新聞 11月1日



片山知事ら=東京・協が関 国土庁で扇長官に要望する

11月1日

溝口町は一日、鳥取県

一支援センター事業ーな に伴う人事は次の通り。 と。展災復興対策至設置

▽がんばろう溝口町総合 事業(見舞金五万円事業) は▽復興に関する全般的

祥郎

潤口町

きょ

対策室を設置 はょう 復興

な調整▽単町緊急給付金

日本海新聞

△)を総務課内に設置す に進める専門部署の展災

課長)佐蔵絢子▽震災復

課主事)松本雅樹又產災

復興対策室兼総務課主事 眾室兼総務課主事(総務

(総務課主事) 舟越聡

與対策室主查兼企画課長

(企画課長)梅原久義▽

策至長兼総務課長(総務

【課長級】震災復興対

【主事級】展災復興対

小林麝子

災害に備えて継続する。 る。災害対策本部は二次 復興対策室(メンバー六 西部地震の復旧を総合的

展災復興対策室の業務

るが、県や市町村の力だけ 院議員に要望内容について 破茂衆院議員や常田亨許参 議員への説明会があり、石 都道所契会館で県選出国会 五分から東京都千代田区の

じはどろにもならない」 復興に全力を尽くしてい

# 33住宅など K

市

がるため、国土庁が窓口と

要望が多くの省庁にまた

なって各省庁に伝える。激 

的、会見、岸本、 日吉律の 各町村長も 同行した。 県 子、境港両市と中山、江府、日南、日野、溝口、西 度改正や財政援助などを、国に緊急要望した。米 興に向けた各自治体の取り組みを支援するための制 東京・電が関の国土庁などを訪れ、県西部地震の復 **庁山善博別事や県西部の市町村長らは三十一日、** 

に対し、属手景長官は「東を求めた片山知事らの説明

海蔵雨の対策が一段落した

この後、農林水産省や国

建に現金を給付する住宅

要望は、被災者の住宅再

土庁、自民党本部などを訪 的な被害について、

や新制度設立など三十三 復興補助金への国の支援

この日は、午前七時四十

の国に対する緊急要望は地震後、二度目 支援を展請した。

> う、万全を期したい」と答 る。要望にこたえられるよ ので次は鳥取という気でい

復興対策室を

対策室を設ける。空長は総 溝口町が設置 溝口町は一日、震災復興

# 政策担当者に話した。

者向けの住宅復興補助事 務課長が兼ね、独居や高齢

切り替える。 る。災害対策本部は継続す 本部を災害復興対策本部に 西伯町は同日、災害対策

業、災害状況の記録保存な ど復興に向けた業務にあた

の結成を準備している線で **鹿野町の第三セクター** 鳥取そばネットワーク

長補佐(総務課長補佐) 與対策室長補佐兼総務課 報課長(情報課長)井上 **越**災復興対策室主查兼價 【課長補佐級】歷災復



る住民ら 満口の旧溝口農協跡で

県西部地震の被災者を励 ホカホカ出前、溝口に そばネット縁で振る舞う 「鹿野そば道場」 田中

車場で300人前を無料サ も、8日正午から同町天萬 の町総合福祉センター前駐 加を予定している会見町で ービスする。 武井 澄

また、そばネットへの参

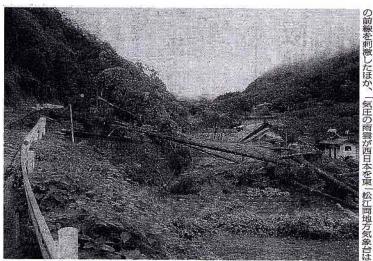
東部2町

と満足そう。 て、休も心も温まりました シコで最もたっぷりあっ のりなどが載ったゆでた 子さん(59)は「そばはシコ 白い息を吹きながらすす このそばを受け取ると、 近くに住む主婦、 森田孝

の会」(小谷英一会長)が、 のそば間好会「吉野そば正人事務局長) と国府町 を作り、青ネギやきざみ を用意。配布開始の正午 新そばを使い計500人前 ごろには住民ら約50人が列

毎日新聞 11月2日

### 日本海新聞 11月3日



県道を乗り越え民家に迫った土砂=午前11時、

災地を中心に被害が相次いだ。 住民に避難勧告が出されたほか、国道180号が一部で通行止めになるなど、鳥取県西部地震の被 山陰地方大雨 一日にかけて、各地で一○○『を超えるまとまった雨となった。溝口町大坂地区でがけ崩れのため

西日本上空に停滞した前線と台風20号から変わった低気圧の影響で、山陰地方は三十一日夜から 地震被災地

被害

台風20号が西日本上空 | 台風から変わった温帯低 | へ通過したためで、鳥取、 | 午前四時に鳥取県全域 |気圧の雨雲が西日本を東||松江両地方気象台は二日||に、同日午前四時四十分||町北方であわせて五棟が

鹿野一八三・五50▽関金 報を発令した。 までの各地の降水量はマ れぞれ大雨洪水、暴風警|現在、河川や道路、林道 に島根県東、西部に、そ一床下浸水。同日午後五時 降り始めから二日正午 り、被害額は一億六千万

町上中谷と日野町井ノ原一け崩れなどに注意するよ 江一一七50マ伯太一〇八 続くといい、同気象台で 町茶屋一〇九・五『▽松 やすいぐずついた天気が 五▽米子一一七。「▽日南 |三日明け方まで雨の降り 三四・五号▽鏡一三九・ ▽倉吉一六一、小▽鳥取一 この雨の影響で、西伯 上空に入って来るため、

リーなど。

止めになった。 砂崩れのため、全面通行 ら溝口町桝水高原の県道 取市秋里、江府町御机か たほか、福部村細川や島 れのため通行止めとなっ の国道180号で土砂頭 など、七カ所で冠水や土

町溝口

に土砂が流入する恐れが あることから町は同日 崩れが発生。近くの民家 溝口町大坂では、土砂 世帯七人に避難勧

朝、 大雨で福部村細川と西伯 告を出した。 鳥取県によると、この

>倉吉一六一・「▽▽扁取一が、引き続き弱い寒気が七〇・「▽下で高く一六九・」と、雨のピークは過ぎた んだ地域では引き続きが 円余りにのぼっている。 は地震や大雨で地盤の緩 など二十カ所に被害があ 鳥取地方気象台による

読売新聞 11月3日

時からの雨量(二百午後) で、一世帯七人に避難勧告 **満口町大坂では、土砂崩れ** た。県西部地震で被災した **始めの先月三十一日午後十** 中心に道路の通行止めが相 住されたほか、被災地を 洪水・疑風驚報を発令し 同気象台によると、降り

午前七時四十分ごろ、土砂 林和道さん(48)方の裏山で 情町九十二に達した。 元が、日南町百九・五歩、 震の被災地では境港市百 一九・五計、米子市百十 内が、倉吉市百六十一が 満口町では大坂の造職業



木をなぎ倒し民家の間近まで迫った土砂(2日午前11時30分、満口町大坂で)

### 1 豪

### 低気圧の接近に伴い、原 被災地 溝口では1世帯に避難勧告 通行止め相次ぐ

|分に林さんの家族七人に避| その後も土砂崩れは続|被害があった。 を受けた町は午前八時五十 方の近くまで迫った。連絡 館に避難した。

2は一日末初から断続的に

強御告を発令。 近くの公民

川で四棟、西伯町北方で 棟の計五棟が床下浸水する の十五か所が通行止めにな った。このほか、細部村細 崩れや短水で、国道や県道 線など見記部を中心に土砂 野町井ノ原の国道―80号 また、四個市中谷と日

たと話していた。 足が認えてとても怖かっ 開けると、土砂がじわじわ

・動きながら迫っていた。

やな言图された杉の木で埋 き、農地約百平方はが土砂

のような音がしたので窓を 林さんは「大きな地響き

107

朝日新聞 11月6日

### 県内市町村の主な災害備蓄状況■ 防災計画 備蓄状況 業者との提携分含む 年度 米 水(じ) 副食(缶) (板) 91 取主選 38630 2050 0 0 1000 96 96 96 96 38000 3800 (岩美郡) 後 0 0 人。討 検討 **应美部** 町町村 96 98 96 ( 000 (八頭郡) 後後今 討檢後 町町町町町町町村町 郡船河八若用佐智 家岡原東桜瀬治頭 検 )討検005計0 20 今~000000 98 96 96 96 96 96 96 討 購入予定 000 00 0 後 検 0 27 (気高郡) 50 0 町町町町 高野谷 000 000 育(東羽泊東三関北大東赤谷伯合 郷朝金条栄伯碕台 郷朝金条栄伯碕台 の 即村町町町町町町町 50 99 10 500 検検0 今今日見今日今今日 討討 96 96 96 96 96 96 96 96 ()0()10()10 後後後 ( . 討 校 0 10 50 ) 0 (西伯郡) 農協と提携 0 20000今 0 0 0 0 94 96 98 00村0村00村 0 後 検 ) 0 検 () 後 91 96 89 96 ) () 検討 後 0 検 ) (日野郡) 肝野 28 500 野府口 98 98 96 60 2000食分 1000 ※境港市の数字は予定。0は「備蓄の予定な を含む。防災計画は最近見直した年度。

学市は、市内三カ所に

鳥取県西部地震を教訓に、県内で 災害時用の食糧などの備蓄を検討す る動きが出始めている。朝日新聞社 が全39市町村に聞いたところ、16町 村が「見直す」「検討の必要があ

の商店十一店と提携してい も弁当を調達したという。 るが、今回の地震では被災 なし。防災計画上は、市内 水用袋などで、米や副食は 非常用ろ過器、毛布、飲料 小も貯水池が複数あるため 伽蕃倉庫があるが、中身は 境港市は四年前から、震 提携外の店から

定はない。

ら、備蓄倉庫の新設はすぐ 分、何年分を備蓄し、どれ できた。総務課は「何人 地震後、四百一の米を調達 農協と提携していたため、 だけの財政負担かを考えた 西伯町も備蓄はないが、

農村地帯だから心配してい

日南、中山両町。備著の予 のが理想だろうが、実際に する向きはあるが、「町が る市町村はない。今後検討 は不可能ではないか。米は 十分な食糧や水を確保する 独自に保管場所をもって、 中部 自前で食糧備蓄をしてい

を設けた。北条町も、 設計を変更、地下に貯水槽 に文化施設アロハホールの 確保できる、としている。 地のタンクで二日分の水を 羽合町は、阪神大震災後 水源 い入れる予定で、ほかの地 害時、米は農協から直接買 予算に毛布やタンクなどの 購入費を盛り込む予定。災

る」と回答し、被害の大きかった境港市 は独自に備蓄計画を進めていた。 地震発 生から6日で1カ月。 備蓄を含む防災体制見直しへの関心が、市町村でも高まり つつある。

米は農家

・農協頼みも

百三十世、遺物千百世余な を各三万八千食、梅平し七 進。計画では、米と非常食 災対策備蓄整備事業を推 ど副食も充実させる。 には無理」といい、淀江、 会見両町も同じ意見。

も各地にある」というのは いるので、いざという時に は供出してもらえる。水源 米は各農家が備蓄して 町もある。岸本町は「水害 たのは初めてだ」という。 後、これだけ必要に迫られ たが、生活面の備落は検討 に備えて土のうなどはあっ していなかった。町発足 備業を真剣に考えている

る考え。 北条町は、農協や大型店と める方針という。食吉市や になりそうだが、備蓄は進 の協定により物質を確保す

ある。 が何だったのかに注目して きた用瀬中の体育館に備蓄 いる。用瀬町も、三月にで 庫があり、 八東町は、土

入を始める。数量は数十個 常食セット(四千円)の購 当者らに多い。 ない」という声が、 から、三年間保存できる非 そんな中で泊村は今年度 、防災担 の地震で必要とされた物資 まや仮設トイレなど、今回

備蓄を進めつつ 一月の補正

る一方で、炊き出し用のか 布を備えた。米は農家に頼 蓄庫があり、とりあえず毛た中央中学校の体育館に備 ると想定している」と楽観 難しい。崩蓄よりも、近く いの食糧は各自で何とかな 現実的だろう。三日間ぐら から弁当などをもらろ方が 郡家町は、四月に完成し 鳥取市は「備蓄は保存が

5 かい点は詰めていないとい る。だが、食糧の量など細 糧や避難場所が提供され 町は、簡保岩井保養センタ 配」とし、防災計画の見直 で米は大丈夫だが、水が心 浮上しているという。 し時に検討する方針。岩美 元業者とも提携を結ぶ話が と協定を結んでおり、 福部村は「農村地区なの 食

### 部础 范 層伽 层 劾



口だった 住宅。犠牲者と火災はゼ 鳥取西部地震で倒壊した 判断。弁当を大量に調達し 最も大切なのは、食事だと

な把握。加えて、避難者に

ました」と岩下文広県防災

通行止めなどになった。 交通網では道路約千カ所が

や対策が不十分だったので

は、との指摘も出ている。

しの点では課題が残った。 県は、年内に液状化対策

「救助と被害実態の詳細

の心構えがあった」と加藤 災の記憶が新たで、ガスの ったとも推測される。 元栓を閉めるなど、防災へ によりも、住民に阪神大震

○防災計画見直し

鳥取県内の被害は重軽傷

者九十七人、住宅の全壊三

間を置かなかった。「被災 れば受けろ。後は県が引き 実の被害は大きいが、拡大 した市町村からの要請があ

な 警博知事は、<br />
意思決定に時

住宅対策を最優先 全国初の支援制度

港両市では、液状化現象で 棟(一日現在)。米子、境

十棟、一部損壊三千百十九 百四十一棟、半壊千二百五

境港岸壁や干拓地が打撃。

の復興へ

検討することにしている。

主役となった行政を期待し い道のりとなるが、住民が

委員会を設置し、復旧策を

切り替えが進んでいる。長

本部から復興対策本部への

の自治体はいま、災害対策

震災から一カ月。被災地

山間部では、初雪が舞う

が良かった、ともいう。現 て一回り太く、がっしりと を免れたといえるだろう。 した構造となっていること らに、この地域は多雪地帯 を少なくした」と分析。さ で、住宅の柱は都会と比べ どで、地震による振動被害 部は地盤が固かったことな る住宅五百五十棟が全半壊 (地盤防災工学)は「山間 芳賀保夫・福山大教授 いる。

部で液状化に対する認識 こえる。 崩壊する」との悲鳴すら聞 防ぎたいとする。「いま、 手を打たなければ、地域が っかけの人口流出を未然に が見え隠れする。地震がき している。 には、過疎に悩む農村の姿 こうした手厚い保護の裏

は、相当な期間がかかると 場が傾いた。復旧までに 立て地の竹内団地では、エ る水産加工会社が並ぶ埋め た。境港市の水産業を支え や埋め立てた住宅地で発生 大きな被害を引き起こし し、地盤の陥没や横ずれが いう。専門家のなかには、 方、液状化は干拓農地 寄りらを救済するのが狙い きないひとり暮らしのお生 宅復興支援制度を目指して され、溝口町でも独自の住 の支援制度だ。これに刺激 補修も百五十万円を限度に 市町村が負担。一部損壊の まざまな住民救済策を模索 だ。山間部の他町でも、さ いる。住宅の建て替えがで 補助する。全国でも初めて 最高三百万円を県と地元

対策。県は先月十七日、い 的補助の方針を打ち出して ち早く全半壊した住宅の公 て、最も急がれるのが住宅 季節を迎えた。復興に向け

### 読売新聞 11月7日



かけそばを食べる溝口町の人たち(溝口町溝口で)

気づけようと、鹿野町の「そ

県西部地震の被災者を元

国府町の「吉野そばの会」は道場」(田中正人代表)、

### 被災者 そばで元気づけ

で三百倉分を配る。
八日正午からは会見町総いた。

みに頑張りたい」と話して りからの 温かい応援を励 ておいしかった。 余霞がま(73)は 「そばはこしがあっ ら取りかかるという同町 答し、屋根の修復にこれか 四十人の列ができた。 在、会社役員幅田義規さん を持ちながら順番を待つ約 ちにそば五百食分を振る舞 の「鬼っ子そばグループ」 に続き安心できないが、問 に。テントの外には、かさ 意された仮設テントは満員 ぼこを入れた温かいかけそ 正午からネギやノリ、かま で、復興に向け頑張る人た 町満口の旧農協跡駐車場 が配られと、二十八席用 自宅の後片付けが一段 雨模様の天候だったが、 (遠藤和夫会長)は、満口 (小谷栄一会長)、溝口町

3グループ溝口で500食分振る舞う



道水源の確保が今後の課 来事だった。安定した水 る断水は予想していた は水道管の破裂などによ り、約一週間飲料水が不 腰で水道水の水源が濁 足する事態となった。町 態はまったく想定外の出 が、水源が泥水で濁る事 会見町では、今回の地 害がないことが分かっ ることが分かった。 事を行った。 対応することにし、急き た。町は諸木水源の取水 くみ上げる諸木水源は被 ょ、水道管のバイパス工 量を二倍以上に増やして (ゆう) 水で、地下水を 泥水が出た水源は湧

題として残った。 想定外の濁り水 了するまでの約一週間は が水洗式トイレを使って おり、バイパス工事が完 同町では約六割の世帯

山水源から泥水が出てい の生活水を賄っている滝 べてみると、町内の大半 との苦情が相次いだ。調 当日夜までに完了。しか ら「泥のような水が出る」 した水道パイプの修理は し、その後、町内各所か 同町では、地震で破損 木水源の水量が通常より や建設省の給水車が各集 流した。この間、飲み水 飲めない水であることを 落を回った。町関係者は を確保するため、自衛隊 広報した上で濁った水を 地震の影響なのか、諸

新たな地下水

振り返る。 中の幸い。助かった」と 多くなっていたのが不幸

ライン確保のため、新た なる。同町では、ライフ 最低一週間以上が必要と には揺れが収まった後、 で濁ることがあり、回復 検討している。 な地下水型の水源確保を 湧水は地震の揺れなど

余裕生んだ備え



影、溝口小学校駐車場 溝口町が埋設した耐震性貯水槽=3月に撮

隣接の給食センターで炊 り、町民が三日間使える 災時には、水道管との接 循環させながら鮮度を保 つ構造となっている。震 統部の弁が自動的に閉ま にけの量が確保できる。 る計画だ。 地割れで孤立した集落に 水「奥大山の水」や米の 新鮮な物質を確保する。 ヘリで水と食料を空輸す 震災時には、土砂崩れや 時貯蔵庫として、常に

から森林火災や負傷者運 の完成を目指し、本年度 きた」と振り返る。 ら、余裕を持って対応で の場はなかったが、圓山 を受けず、貯水槽の活躍 和紀助役は「震災時には 内の水道はほとんど被害 ずある』という気持ちか 『三日分の水はとりあえ ざ出しも可能だ。 また、江府町は来年度 今回の震災で、溝口町 の震災で、県西部の日野、 十カ所に上る。 市など十五市町村で約七 すい湧水の水源は、鳥取 確認された。濁りが出や 約十カ所の水源に濁りが 溝口、大山、岸本町など 水が問題となったが、県 会見町ではたまたま湧 鳥取県によると、今回

が必要になるのでは」と 環境政策課は「地層や水 示が書かれたマニュアル 時には、だれがどのよう 源が地震に強いとは言え 脈の関係で一概に地下水 に動くかなど、細かな指 備などが必要。特に震災 たる連絡管、給水車の整 統を分けたり、他町にわ ない」として、「配水系

水道水が使えなくなった 槽が消火用と飲料水の供 安定した水源確保課題に 給源として役に立ったこ とに着目し、今年三月に 口の溝口小駐車場に埋設 していた。 を貯蔵でき、上水道の水 貯水槽は約六十小の水 る。 搬、震災用の緊急ヘリポ ートの建設を進めてい ヘリポートには備蓄施

を施していた町もあっ 場合に備え、事前に対策 淡路大震災で耐震性貯水 た。溝口町では、阪神・ ンターに隣接した同町溝 耐震性貯水槽を町給食セ 道管とつなぎ、水を常時 設を併設し、地元産の名

フィフライン

話している。 班・高塚直人) (鳥取県西部地震取材

111

細かく分類。数百分に上る

目治体もある。

仮設住宅建設などの計画を 報、医療、防疫、物資供給、 初動態勢から情報収集、広

### 山陰中央新報 11月10日

響を相次いで改訂した。防 西部の自治体は、防災計画

振り返る。 ▼5分後に対策本部

阪神大震災を契機に、県

から対応した。防災計画書

担当課長が指揮し、職員を

は単なる計画書だった」と現場に向かわせた。

す、豪雨、豪雪、強風など自 災計画書は地震のみなら

系災害のすべてを想定し、

生きた町がある。溝口町だ。

記した町職員用マニュアル 組織配備、事務分担などを 八年に防災計画書を改訂。 同町は阪神大震災直後の

そんな中、防災計画書が

町役場が被災。使用不可能を作製し、全員に配布した。

自治体の防災計画

を契機に、県西部の自治体、防災機関などは危機管理体制を強化した。阪神 応を検証する 大震災の教訓は生きたのか。防災、備蓄、ボランティア、心のケアなどの対 激靂で、全平壊の家屋が千五百九十五棟にも及ぶなど、大きな傷跡を残した。 **被災地では今も懸命な復旧作業が続いている。七年一月に起きた阪神大震災** 鳥取県西部地震から一カ月が過ぎた。マグニチュード7・3、震度6強の

D1 4

### られる"即効性"



### 求め

だした。集まった災害情報年九月、地震を想定した町 各課分担をチェック、動き そのマニュアルに従って昨 総合防災訓練を実施した。 形だけのマニュアル 職員用マニュアルと防災訓と、町災害対策本部設置後

練の実施が生きた。職員のの素早い対応を評価した。 佐蔵絢子総務課長は「町 危機意識が徹底していた」▼「計画書」にすぎず 長は「防災計画書は計画書 会見町の米原俊一総務課

な人手は、町職員数をはるりが求められる。

害が甚大。災害対応に必要

即効性のあるマニュア

員では無理だった。人命が 対応は、少ない自治体の職

最優先。現場で感じたことは、各班に振り分けられ、

が「まさか震度6強の地震

となった自治体職員の多く

対策本部が設置された。

町職員は防災計画のマニ

には、職員駐車場に町災害

になったが、地震の五分後

鳥取県西部地震の被災地

が起きるとは。大震災への

ュアルに従い、組織体制、

集に走り回った。翌日の七 員配備、復旧対策本部を組 ▽水道一の四班に分けて職 日には▽配食▽給水▽屋根 などが町内を巡回、情報収 緻編成した。 地震直後、消防団本部班

一職員では人手足りず 震源地に近い日野町は被 酷だが、防災計画書が激 どが違う中、自治体の取 防災計画書ではなく、と 組みを単純に比較するの するか、しないかは目 の取り組み次第。形だけ 揺れの程度、被災状況 ろ、濱口町提供 横の職員駐車場で蔵災情報地震発生の直後から町役場 -- 10月6日午後2時2分ご の収集に努める溝口町職員

い、という状況ではなかっ

た。一人で情報収集、現場

かに超えていた。防災計画

の事務分担を実行すれば良

る」と続けた。 通りにやっていたこともあ は教訓とし、今後修正し り返ってみると、防災計画 編成したわけではない。振 て、災害対策本部の組織を 出し、「防災計画書に沿っ ルに再改訂したい」と切り だった。今回の体験を生か し、一目で分かるマニュア 町災害対策本部が設置さ 係長は「対応の遅れた部 になかった。池田俊弘防 計画書を見る余裕は町職 の要望、緊急性の高いも から対応した。分厚い防 い」と語る。 導、食糧確保など、被災で 回りをこなす職員もいた。 各課の枠を超え、避難

で、既存の防災計画では るなど、震災の特異部分 最中だった。加藤晃総務 も全面改訂する考えを示 主幹は「建物が使えなく ▼年度内にも全面改訂 「震災編」を加える作業 えなかったと、年度内 西伯町は防災計画書

ながらず、時間だけが過ぎ ト」 に出席。 携帯電話もつ 中の「全国介護保険サミッ 時間半後。町長ら管理職の れたのは、地震発生から

大半が同日、米子市で開催

布などを確保するため、

事前に確保しておくこと

が必要だ。県は弁当や毛

町村は食料や生活物質を 被災者のために、 県や市

を確保しており、今回の

業者と協定を結んで物資

度災ではその効力がクロ

ズアップされた。しか



―。避難所で生活を送る

備えあれば憂いなし

で、万全を期す構えだ。 備えなし」半数

溝口小学校駐車場に埋設

などを避難者に配布する き出しのおにぎりやパン

千個、毛布五百枚を備蓄。

までに米二千食分、缶詰

までに自衛隊が行った炊

の震災では、食料や生活 とを反省点としてあげ ではほとんどが無対策 やストーブがなかったこ 博知事はビニールシート ローズアップされた。 あまり聞かれず、この協 物質に困ったという声は の後三業者と締結。今回 たわけではなく、片山善 定が功を奏したことがク 県の備蓄が完ぺきだっ 村。特に岩美郡、西伯郡 市町村のうち十九市町 を講じているのは三十九 携など何らかの形で対策 浮き彫りとなった。 ると、備蓄や業者との提 おり、防災意識の低さが いところが半数を超えて 業者と協定を結んでいな 県防災危機管理室によ 市町村では備蓄ゼロや

り返る。

調達に走る

となった。今回の震災を

る意識の低さが浮き彫り

市町村は半数以上と多

/、市町村の防災に対す

し何の備えもしていない

た町村も出ている。 きっかけに見直しを始め

日、弁当業者やホームセ 一業者と協定を結び、そ ンター、百貨店など二十 鳥取県は今年六月三十 業者と協定を結ぶ方針 ストーブや簡易トイレの レンタル会社など約三十 た。県では今後、新たに ても仕方ない」と嘆く。 する意識が低いと言われ くない状況で、防災に対 で、県の担当者も「芳し

市町村もあり、若桜町で は「これからスーパーな防災計画に基づき、今春 に見直しや検討を始めた 討したい」と前向きだ。 今回の震災をきっかけ どと協定を結ぶことを検 一方、溝口町では地域 町内の商店へ米、パン、 なく、地震直後に職員が

日、炊き出しを行った満口町では職員や町内 続々と増えたが、同八時 容者は六日午後六時には た。九カ所の避難所の収 飲み物などの調達に走っ 三百人を超え、その後も

で炊き出しを開始。備蓄 ィアが七日から役場など 持って対応できた」と振 できていたので、余裕を った。圓山和紀助役は した耐震性貯水槽には約 六十いの水も確保してあ 「いざという時の備えは 職員と町内のボランテ 多く、米など食料はいく た。これについて町は る」とあるが、今回の震 的な備蓄を図るものとす を検討し、食料等の計画 ことができた。 「都会とは違って農家が 災には間に合わなかっ 「今後は学校等への備蓄 町の地域防災計画には

い状況だったのは明らか 蓄を含めた防災計画の早 自治体からの支援も難し 貝では対応できず、近隣 超える震災に限られた職 た。今回を契機に食料備 しかし想定をはるかに

乗り切った。

防災計画見直し

急な見直しが望まれる。

(鳥取県西部地震取材班

日野町では食料備蓄が

みそ汁をつくり、避難所 入した材料でおにぎりや 届いた米や野菜、町が購 併用しながら緊急事態を に届けた。炊き出しはピ 食料は使わず、各地から し、二十五日まで弁当と - ク時には三百食分に産 は」と話す。 らでもある。地域にあっ た備蓄体制こそ必要で

113

### 山陰中央新報 11月11日

彫りになった。 て、自治体の食糧備蓄などなどの非常食が二十二百六 に対する意識の違いが浮き十五食、飲料水も七千四十 七年の阪神大震災を契機 **鳥取県西部地震によっ にはシチュー、クラッカー** 

り返った。 民に安心感を与えた」と振 調達の協定を締結。それ以 遊難所に非常食約六十食を たが、蓄えがあることで市 「備蓄食糧の量は少なかっ 外、町施設内に備蓄はして

た。県西部の大半が中山間

えた。 配布した。市環境防災課はっていた。震源地に近い日 以を備え、市内六カ所に蓄した。 今回の地震で、下内の人 し、流通備蓄の体制を確立 JA、町内の米穀店と食糧 野町は、防災計画によって 品マーパーなど十社と協定 糧は現物備蓄ではなく、食 間部は、都市部の対応と運 農家世帯の割合が高い山 ▼備蓄なかった日野町

D20

# 自治体の食料備蓄

影響を与えた。住民依存の なども、食糧佣蓄の対応に が高い。そんな環境に加え、 地。農山村地帯で自活能力 をしないところも多かっ の自治体もあったが、備蓄 に、備蓄を開始した県西部

各自治体の財政状況の違い

農災は疑問を投げ掛けた。

機構器について、今回の

### 政事情 で対応に差



帯の多い山間部の自治体はが多い。井戸、谷川に水も易しとし、日野町と同様、 力高 農 部

位の予算を計上し、徐々に に着手。毎年、数十万円単

を市内三カ所に備えた。食 や毛布(子七百五十枚)、

日野町に限らず、農家世

「米など食糧を貯蔵する家 あって、飲料水の調産も容 住民の自活能力に依存した などを設け、食糧、飲料水、

備蓄倉庫、防災ヘリポート

く県民に呼び掛けている。

個人レベルで三日分の備器 庫県では「自治体が二日分

(現物と協定分の合計)、

を目安にしてほしいと、広

センター建設を計画してい 事業費は約二億九千万円。 た。十四年春の完成で、総

江府町は年内着工で防災

備熱が望ましい。さらに気 ヒによる流通システムの分

断を考えると、やはり現物

の飲料できる雌だという。

水タンクを設置した。全町

地下に、六十小の耐震性貯る」との考えを示した。 円を投じて清口小の駐車場 蓄よりも、現物燗器を勧め

企業自体の被害、交通マ

ている。

差が出るのは当然だ」とし によって手類配分の仕方に が何を復興の頂点とするか 復興を第一に考えた。各町 ら補助することを打ち出し 円までは全額を公的資金が 宅を補償する際、西五十万

のは非現実的だと語った。 もできず、その米を食べる

同町は昨年末、約七千万

備署を促している。協定備 らも、危機管理の意味から 程事情の違いを考慮しなが 保管。使能になれば、精米 全を置えていた。 円山和紀 を始め、役場倉庫に約二千 は食べられる即席米の備蓄 は、五年前から湯をかけれ

は「自治体でよの財政、食

ており、町総務課は一住宅

兵庫県防災局防災企画課

即役は「農家の多くが玄米

町に増加した。 直、磨備が二十十 十一市町だった。十二年期 企業などとの協定備蓄は三 物開答していたのは全人

在では、現物偏蓋が二十九

を打ち明ける防災担当者も 野型製のだったと、本音 場所の問題なども二の足を 冶体では「財政負担、保管 が多かった。中山間地の自 危機管理体制を敷くところ

に兵庫県で、食糧などを理

八古町のうち四十町だけ、

仮設トイレ、ビニールシー

トなどを備える予定。

▼個人レベル3日分を

同じ中山間地の溝口町

救出用バール(曺五十本)いなかった。

境港市は八年度から備蓄 ▼数十万円の予算

場合、水のろ過装置(三台)

計画で備蓄を開始。同市の

米子市も八年から三カ年

帯に被害の有無に関係なく かになった。最も手厚い例 では、隣口町が町内の全世 ことが、県のまとめで明ら 一律五万円を配布した一

方、日野町などは単独の見

治体で復興策がまとまる 中、被災世帯へ支給される 見舞金の細に差が出ている

住宅が全半壊したとする 県によると、これまでに

鳥取県西部地霞の彼災自|舞金制度を設けていない。 固まったところから配布す 見込んでおり、被害状況が 県は約六千万円の見舞金を

するほかは、各市町村とも 子、境港両市など八市町 壊世帯に一律五万円を配布 村。岸本、江府両町が全革

舞金制度を設けたのは米 | 罹災証明を発行したのは十 | すべて支給額や基準が異な 二市町村で、うち単独の見 ĕ った。日野町は被災者が住 独の見舞金制度を設けなか 同三十八世帯の会見町は単 確認されている日野町と、 金半壊五百二十五世帯が

布される。 表者で作る配分委員会が支 め切りを待って各団体の代 現在、一億千九百万円とな 寄せられた義奨金は十三日 後に、各市町村を通じて配 回証明の発行が一段落した 象となると見込んでいる。 ら、最終的には三千戸が対 戸にのぼっていることか 金半壊合わせて約二千六百 罹災証明発行数が県全体で 律配布される。十日までの 半壊した世帯に二万円が った。土二月八日の募集締 県や県共同夢金会などに 県の見舞金は、住宅が全

朝日新聞 11月15日

### 朝日新聞 11月16日

場合に、最高百五十万円ま 業をまとめた。 地区の集会所を補修する

での補修費の二分の一を補

興で、新たな独自の支援事

溝口町

壁の補修と墓地(墓石、灯 ろうは除く)の場合は、同

溝口町は、地震災害の復 | 助する。集会所の石垣や獺 | 同施設(農道、水路、林道 八十万円までの補修費の二 | の二分の一を補助する。い 被災した農地と農林業共 が対象。 など)についても、それぞ れ補修事業費四十万円まで ずれも十万円を超える事業

### 毎日新聞 11月24日

費約500万円の大半をま 400万円の補助で、建築 設けており、安達さんは計 円上乗せする独自の制度を 町は年収250万円以下の 用して自宅を建て直すこと 初の住宅再建への公的支援 世帯には、さらに100万 県と市町村が支給する全国 全壊した同県溝口町畑池、 になり23日、地鎮祭をした。 監禁、安達一孝さん(72)が、 (300万円)を初めて活

どんどない。(公的支援は) 達さん夫妻は話した。 本当にありがたい」と、安 「年金生活で、蓄えはほ

住宅再建スタート 寒遠さん 公的支援を初活用

鳥取地震

鳥取県西部地震で自宅が 成する。 の皇宅(約50平方紀)は大 着工、来年1月下旬には完 再建するのは元とほぼ同じ 広さの木造家屋で、24日に し、納屋で暮らしていた。 黒柱が大きく傾くなど 全壊 築後約100年の木造平屋 (73)と2人暮らし。地震で 安達さんは、妻音子さん

### 朝日新聞 12月15日

クレーン車を使って棟木を の補助金を使った第一号の 戦せ、骨組みを仕上げた= 住宅で、八人の大工さんが あった。県などが支給する 畑池の農業安達一孝さん 住宅復興補助金と同町独自 (当)方で十四日、上棟式が 住宅を再建している游口町 鳥取県西部地震で被災、



## 溝口で上棟式

予定。 方がの家が一月末には建つ

木造平屋建て約四十六平

ヒノキの柱二十数本を建

て、床板を張るなど、作業

天候に恵まれたこの日は | を通し、屋根に板をふい

て、アメリカ松の太いはり一が一気に進んだ。

### 読売新聞 11月16日

西部地震の復興支援事業の始めた。 金などが支給される住宅復一万円上乗せする独自の制度 替えに最高四百万円の補助 独自の制度を含めると建て る町中央公民館に設け、町一の建て替え分の限度額三百 申請窓口を仮庁舎にしてい 十万円以下の世帯に限り百 万円に加えて、毎収二百五 同町は、住宅復興補助金

溝口町 住宅補助申請受け付け

満口町は十五日から、県 | 興補助金などの受け付けを | を設けている。ほかに石垣 以下の世帯は所得証明書 積書と年収二百五十万円 一人が窓口に訪れた。 などが含まれ、初日は十八 ・擁壁補修、集会所の補修 が必要。建て替え分は一 〇〇二年十月五日、補修的 申請には印鑑、工事見

年十月五日まで 受け付け

その他の事業は二〇〇

12月29日 朝日新聞

役場跡地であった溝口町の仕事納め式で、住田 **圭成町長の話を聞く町職員ら**=満口町溝口で

であった。片山善原知事 県庁の仕事納め式は講堂|ねぎらった後、課長補佐級|をする。県民のためにいい

班に対し職場表彰。労を一るために人的、物的支援 県は生き生きと仕事をす 以上の職員二百五十人に 応が評価されてうれしい。 「県西部地震では行政の対

理事務局、軽油引取税特別 策にあたる部署や環境管 が、西部県民局など地震対

仕事をしてほしい」と話し め式をした。住田圭成町長 り壊した役場跡地で仕事納 た。 は約六十人の職員を前に 被災地の溝口町では、取

「予期しない事態が発生し

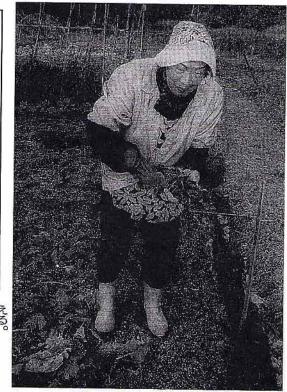
鳥取、境港両市など十七市町村の仕事納めは二十九日。暦の関係で、冬休みが十 連休になる自治体もある。 県庁や<br />
倉吉市など二十二の市町村役場で二十八日、<br />
仕事納め式があった。<br />
残る

たが、復旧のために責任を 持って務めてくれた。町民 ていると思うが、新しい年 は非常に高い評価をしてい 欲しい」と激励した。 も復興を最優先に頑張って やストレスもピークに達し る」と述べ、「地震で疲労

一と話していた。 員五、六人の宿直体制を続 でも、正月気分は出ない ら、ようやく一息つける。 れる状況ではなかったか けていた。ある男性職員は 「地震後、満足に休みが取 同町では十一月末まで職

### 日本海新聞 1月6日

### △復興の春△指折り数え



畑仕事は生

行き来は、老身にこたえ

完成するという。新居は

六畳と四畳半の二間。敷

徒歩で約十分。降雪期の を分けてもらいに行く。

月中に着工し、

新しい家は今

さんでもは、全壊した自 宅で厳しい冬を越す。都 した溝口町畑池の長尾忍 鳥取県西部地震で被災

溝

町

Ō,

長尾忍さん(79歳)

「すき間風が寒くて寒

ではない。「心臓が弱い

ちがみてくれる。 受け、不足分は子どもた

で、ゴボウ掘りなどに精 を出す。決して楽な生活

町の住宅復興補助金とし

に約百万円が必要。県と

て合計四百万円の支給を

り暮らし。自宅近くの畑 しながら日々を過ごす独

くした。今は畑の世話を

費用は約五百万円。新し

地内の蔵跡地に建てる。

い井戸を掘るのに、さら

四年前に夫を病気で亡

頑として動かなかった。 は同居を勧められたが、 会に住む子どもたちから

ぬまで住んでいたい」。 新居が建つ。長尾さんは「生まれ育った土地に死 どで春には、ささやかな 行政の住宅復興補助金な 子どもの誘い断り「ここで暮らしたい」都会に住む「ここで暮らしたい」 "復興の春』を指折り数

で寝起きしている。地震 も、柱が傾いた全壊家屋 震から三カ月を迎える今

くて…」。長尾さんは地

う体も心配だ。 ると不整脈になる」とい から心配事や無理がたた もうそこは引き払っ

い。健康に気をつけて、早く暖かい家に入れた う言って長尾さんは目を ていたいですなあ」。そ 元気なうちは畑をかまっ 「先祖代々の位はいを

が、ハウスではコタツで 自宅に戻った。 ハウスで過ごしていた 直後は自宅横のビニール と長女から声が 来い」。震災後、 関西に住む長男 てこっちに出て

を抱えて近くの民家に水 てしまい、ペットボトル 地震前から水の出が悪か った井戸水が年末に枯れ 玄関の土間には、水の入 ルが十数個蓄えてある。 ったタンクやペットボト 立て付けの悪くなった た た土地に死ぬま で住んでいた は肌に合わな 三の誘いを断っ い。生まれ育っ 掛かったが、再 「都会の空気 県西部地震から3カ月

